

南瓜

芥川龍之介

青空文庫

何しろ南瓜かぼちやが人を殺す世の中なんだから、驚くよ。どう見たつて、あいつがそんな大だいそれた真似をしようなんぞとは思はれないぢやないか。なにほんものの南瓜かぼちやか？ 冗談じようだん云つちやいけない。南瓜は綽号あだなだよ。南瓜の市兵衛いちべゑと云つてね。吉原よしはらぢや下つぱの——と云ふよりや、まるで数かずにはいつてゐない太鼓持たいこもちなんだ。

そんな事を聞く位ぢや、君はあいつを見た事がないんだらう。そりや惜しい事をしたね。もう今ぢや赤い着物を着てゐるだらうから、見たいつたつて、ちよいとは見られるもんぢやない。頭でつかちの一寸法師いっすんぼふし見たいなやつでね、夫それがフロツクに緋天鷲ひびろうど絨

のチヨツキと云ふ拵こしらへななんだから、ふるつてゐたよ。おまけにその鉢はちの開ひらいた頭へちよんと鬚まげをのつけてゐるんだ。それも粹よな由しべゑやつこ兵衛へいゑ奴やつこか何かでね。だから君、始めて遇あつたお客は誰でもまあ毒気どくきをぬかれる。すると南瓜のやつは、扇子で一つその鉢の開いた頭をぽんとやつて、「どうでげす。新技巧派たいこもちの太鼓持たいこもちもたまには又おつ乙おつでげせう」つて云ふんだ。悪い洒落しやれさね。

洒落と云へば、南瓜かぼちやにや何一つ芸げらしい芸がない。唯お客をつかまへて、洒落しやれ放題ほうだい洒落しやれる丈だけなんだ。それが又「にはかに洒落しやれられません」つて程ゆにも行かないんだから、心細いやね。尤もつともそこはお客もお客で曲まがりなりにも洒落しやれのめせば、それでもう多たわい曖曖なく笑つてゐる。云はば洒落しやれのわかつたのが、うれしくつてたま

らないと云ふ連中ばかりなんだ。

あいつも始はじめはそれが、味みそけ噌け気だつたんだらう。僕が知つてからも、随ずるぶん分ぶんいい気になつて、擦くすくつたもんさ。所がいくら南かぼちや瓜やだつて、さう始し終しやれ洒落しやれてばかりゐる訳にや行ゆきやしない。たまには改ままつて、真ま面目じめな事も云ふ時がある。が、お客の方ぢや南瓜なぐわは何時いつでも洒落しやれるもんだと思つてゐるから、いくらあいつが真ま面目じめな事を云つたつて、やつぱり腹を抱へて笑つてゐる。そこがこの頃になつて見ると、だんだんあいつの気になり出したんだ。あれで君、見かけよりや存ぞんぐわい外がい神しん経けい質しつな男だからね。いくらフロツクに緋ひびろうど天てん鳶う絨じゆうのチヨツキを着て由よしべゑやつこ兵へい衛ゑい奴やつこの頭を扇せんす子すで叩たたいてゐたつて、云ふ事まで何時いつでも冗じようだん談だんだとは限りやしない。真面

目な事を云ふ時は、やつぱり真面目な事を云つてゐるんだ、事によるとお客よりや、もつと真面目な事を云つてたかも知れない——とまあ、僕は思ふんだがね。だからあいつに云はせりや「笑ふ手前が可笑しいぞ」位な気は、とうの昔からあつたんだ。今度のあいつの一件だつて、つまりはその不平が高じたやうなもんぢやないか。

そりや新聞に出てゐた通り、南瓜が薄雲太夫と云ふ華魁おいらんに惚れてゐた事はほんたうだらう。さうしてあの奈良茂と云ふ成な金りきんが、その又太夫たいふに惚れてゐたのにも違ひない。が、なんぼあいつだつてそんな鞆当筋さやあてすぢだけぢや人殺しにも及ぶまいぢやないか。それよりあいつが口惜くやしがつたのは、誰もあいつが薄雲太夫

に惚れてゐると云ふ事を、真まにうける人間がゐなかつた事だ。成金のお客は勿論、当の薄雲太夫にした所で、そんな事は夢にもないと思つてゐる。尤もつともさう思つたのも可愛かはいさうだが無理ぢやない。向うは仲なかの町ちやうでも指折りの華魁おいらんだし、こつちは片輪も同様な、ちんちくりんの南瓜だからね。かうならない前に聞いて見給へ。僕にしたつて嘘だと思ふ。それがあいつにやつらかつたんだ。別して惚れた相手の薄雲太夫が真まにうけないのを苦やに病やんだらしい——だからこそその人殺しさ。

何でもその晩もあいつは酔つぱらつて薄雲太夫うすぐもだいふの側へ寄つちや、夫婦になつてくれとか何なんとか云つたんださうだ。太夫たいふの方ほうぢや何時いつもの冗談じようだんと思ふから、笑つてばかりゐて相手にしない。

しないばかりなら、よかつたんだが、何かの拍子ひやうしに「市兵衛いちべゑさんお前わちき妾まに惚ほれるなら、命いのちがけで惚ほれなまし」つて云つたんださうだ。それがあいつの頭へぴんと来たんだらう。おまけに奈良茂ならもがその後あとから、「かうなると汝われと己おれとは仇かたき同志や。今が今でも命いのちのやりとりしてこまそ」つて、笑つたと云ふんだから機きつかけ会あひが悪わるい。すると、南瓜かぼちやは今まではしやいでゐたやつが、急に血相けつさうを変へながら坐り直して——それから君、何をやつたと思ふ。あいつがそのとろんこになつた眼を据ゑてハムレットの声こわいろ色いろを使つたんだ。それも英語で使つたんだと云ふから、驚かあね。

これにや一座も、呆氣あつけにとられた。——とられた筈はずさ。そこにゐた手合てあひにや、遊扇いうせんにしろ、蝶兵衛ていべゑにしろ、英語の英の字もわ

かりやしない。其角きかくだつて、「奥おくの細道ほそみち」の講釈はするだらうが、ハムレットと来た日にや名を聞いた事もあるまいからね。唯その中でたつた一人、成なりきん金のお客にやこれがわかる——そこはアメリカで皿洗ひか何かして来ただけに、日本の芝居はつまらないとあつて、オペラコミックのミス何なんとかを鼻ひいき屑くせにしてゐると云ふ御人ごにん体ていなんだ、がもとより洒落しやれだと心得てゐたから、南瓜が妙な身ぶりをしながら、薄雲太夫をつかまへて、「You go not till

I set you up a glass/Where you may see the inmost part of you.」とか何なんとか云つても、不あひかは相は変はげらすらげら笑つてゐたさうだがね。——そこまでは、まあよかつたんだ。それがハムレットの台辞せりふよろしくあつて、だんだんあいつが太夫たいふにつめよつて来た時に、間まの悪

い時は又間の悪いもので、奈良茂の大将が一杯機嫌でどこで聞きかじったか、「What, ho! help! help! help!」とポロニアスの声こわいろ色を使つたぢやないか。南瓜のやつはそれを聞くと、急に死人のやうな顔になつて、息がつまりさうな声を出しながら、「How, no w! A rat? Dead for a ducat, dead!」と云ふが早いか、いきなり奈良茂もの側にあつた鮫鞆さめぎやの脇差わきざしを引こぬいて、ずぶりと向うの胸へ突つこんだんだ。そこでほんもののポロニアスなら「Oh! I am sla E!」と云ふ所なんだが、刀は切れるし、急所だし、うんと云つたきりお客は往わうじやう生き。その血の出た事つたらなかつたさうだよ。

「見やあがれ。己おれだつて出たらめばかりは云やしねえ。」——南か

瓜ぼちやはさう云つて、脇差を抛はぶり出したさうだがね。返り血もかか
 つたんだらうが、チヨツキが緋天絨ひびろうど鴛うなので、それがさほど目に
 立たない。人を殺したつて、殺さなくつたつて、見た所はやつぱ
 りちんちくりんの、由兵衛よしべゑ奴やつこにフロツクを着た、あの南瓜いの市
 兵衛ちべゑが、それでもそこにゐた連中にや、別人のやうに見えたんだ
 らう。——見えたんぢやない。まるで別人になつてしまつたんだ。
 だから、あいつが御用ごようになつて、茶屋の二階ひつたから引立てられる時
 にや、捕縄とりなほのかかつた手の上から、桐きりに鳳凰ほうわうの繡ぬひのある目の
 さめるやうな綺麗きれいな仕掛しかけを羽織はおつてゐたと云ふぢやないか。なに
 誰の仕掛だ。勿論薄雲うすぐも太夫たいふのさ。

それ以来吉原よしはらは、今でもあいつの噂うはさで持ちきつてゐるやうだ。

と
 兎かくに角かくこれで見ても、何なんでも 冗じょう談だん だと思まじふのは危まじ険めだよ。笑
 つて云まじつたつて、云めはなくつたつて、真ま面じ目めな事はやまつじぱり真ま面
 目めな事じにちまがじひめないからめね。

(大正七年二月)

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランティアの皆さんです。

南瓜

芥川龍之介

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>